



2019年度第3四半期決算の概要

(2019年4月1日～2019年12月31日)

ご説明資料

 山陽特殊製鋼株式会社

目次

1. 需要動向

自動車市場の動向、外部環境の動向、特殊鋼市場の動向

2. 2019年度第3四半期決算の概況

損益の概要

構造ベース利益について(2018/4-12月期→2019/4-12月期)

業績推移(四半期)

営業利益の変化要因(2018/4-12月期→2019/4-12月期、2019FY2Q→2019FY3Q)

セグメント別損益

貸借対照表

営業キャッシュ・フロー(簡便計算による)の推移

D/Eの推移

(参考)設備投資・減価償却費の推移

3. 2019年度業績予想等

2019FY業績予想の修正について

営業利益の変化要因(2019FY下期前回予想→2019FY下期今回予想)

当社単体業績、Ovako業績、MSSS業績

営業利益の変化要因(2018FY実績→2019FY今回予想)

構造ベース利益について(2018FY実績→2019FY今回予想)

4. 株主還元

2019FY配当について、配当推移

自己株式取得と自己株式消却の完了について

5. 緊急収益改善対策

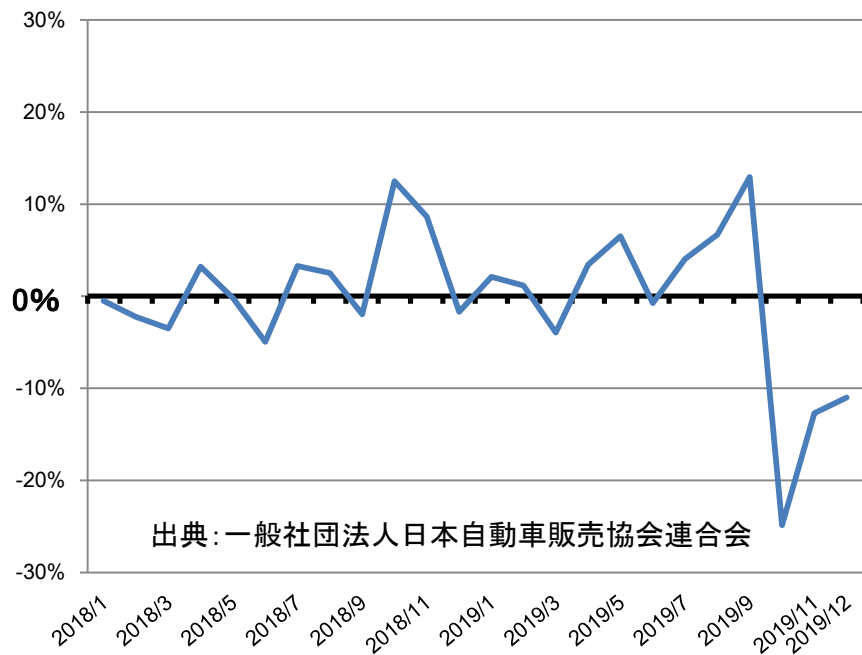
6. 参考資料

トピックス

自動車市場の動向

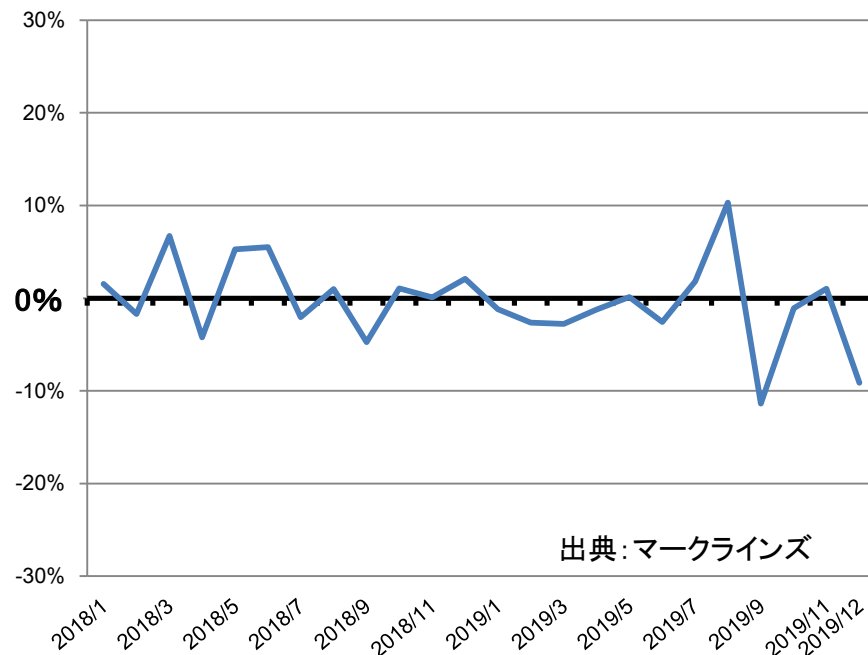
日本自動車販売台数

(前年同月比増減率)



米国自動車販売台数

(前年同月比増減率)



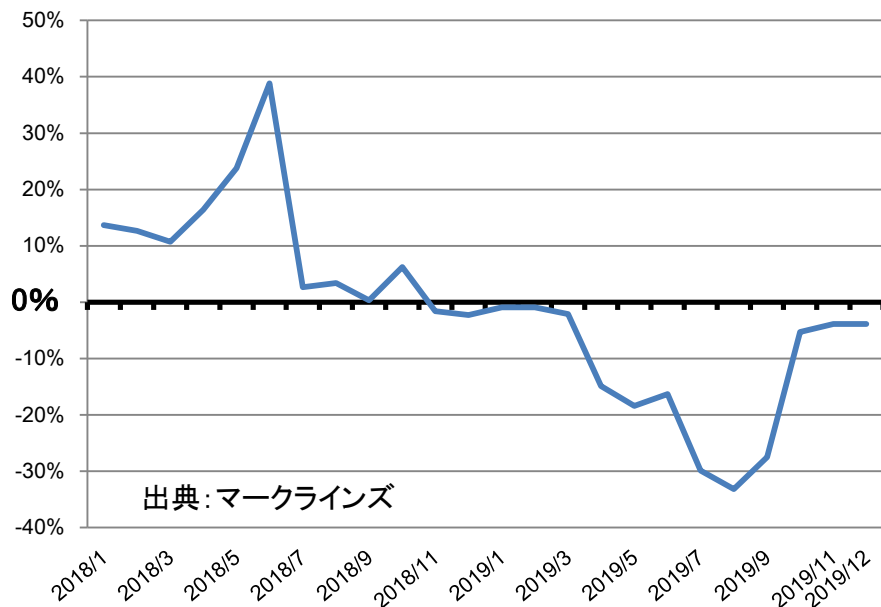
2019/07~09は消費税増税前の駆け込み影響あり
2019/10は消費税増税後の反動で約-25%減
以降も鈍化傾向が継続している。

2018年の自動車販売は横ばい推移。
ストライキ等の影響もあり足元鈍化傾向。

自動車市場の動向

インド自動車販売台数

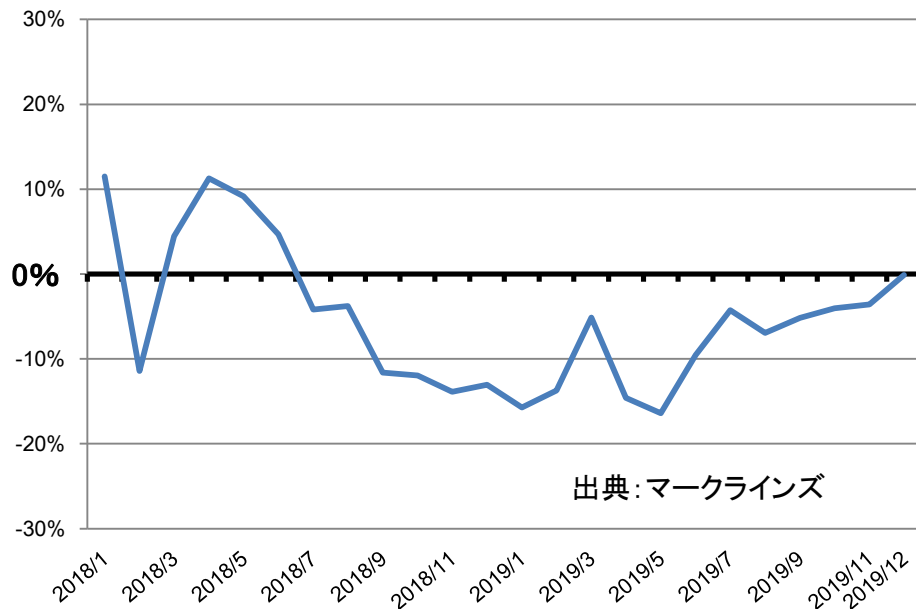
(前年同月比増減率)



保険料引上げ、燃料価格上昇、自動車ローン貸渋り、雇用環境悪化などの影響で、2018/07頃から長期にわたり落ち込みが継続。
2019年秋口には底打ちし、足元マイナス幅縮小。
2019/12は、対前期比で-3.9%。

中国自動車販売台数 (工場出荷台数ベース)

(前年同月比増減率)



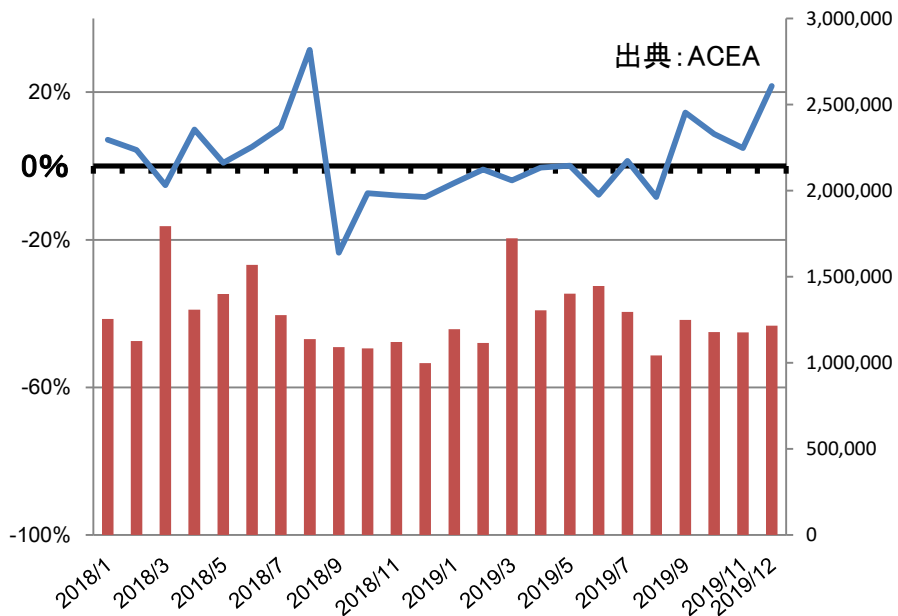
米中貿易摩擦、都市部での新排ガス基準導入影響で、2018年後半から対前期比で落込。
2019年夏ごろよりマイナス幅縮小。

自動車市場の動向

欧州自動車販売台数

(前年同月比増減率)

(単位：台)

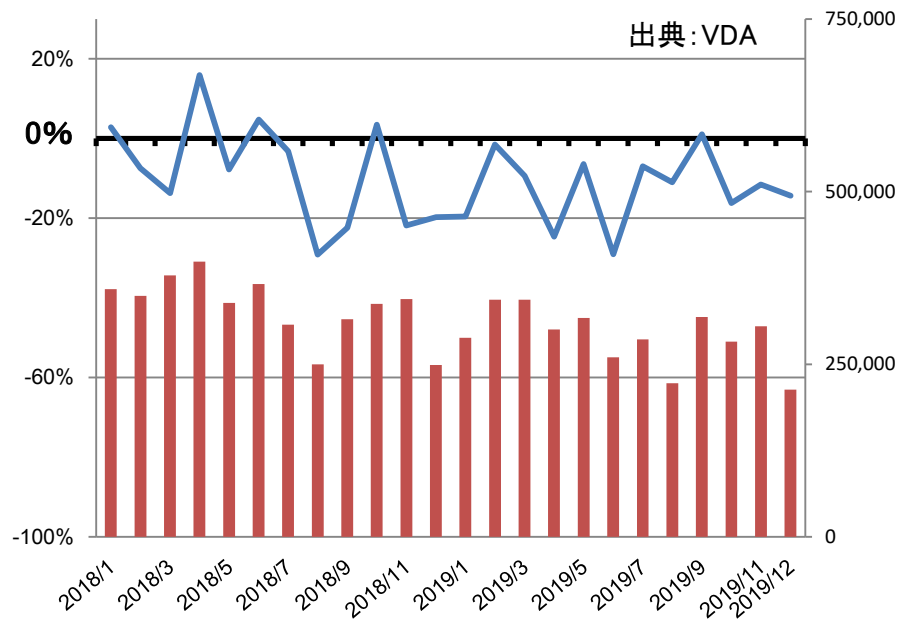


2018/09の急激な落込みはWLTP導入影響。
以降はブレクジットや米中貿易摩擦などの懸念材料もあり、低調な推移だったが、2019/09頃から回復の傾向がみられる。
2019/12は、対前年同月比+21.7%。

ドイツ自動車輸出台数

(前年同月比増減率)

(単位：台)

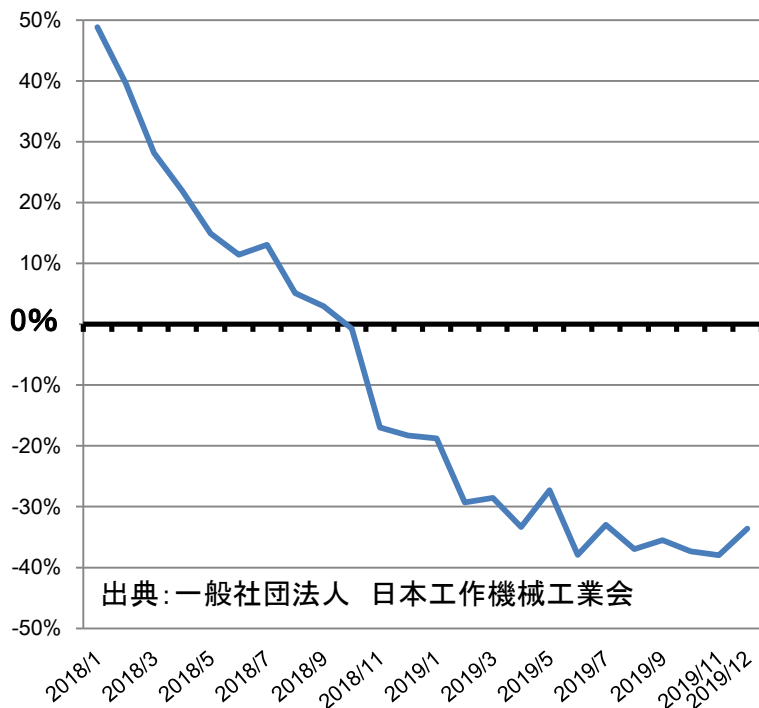


2018年以降、米中貿易摩擦の影響等で中国での自動車需要が減少、在庫調整もあり継続して下落基調。
2019/12は対前年同月比-14.3%と下落。

外部環境の動向

工作機械受注金額（日本）

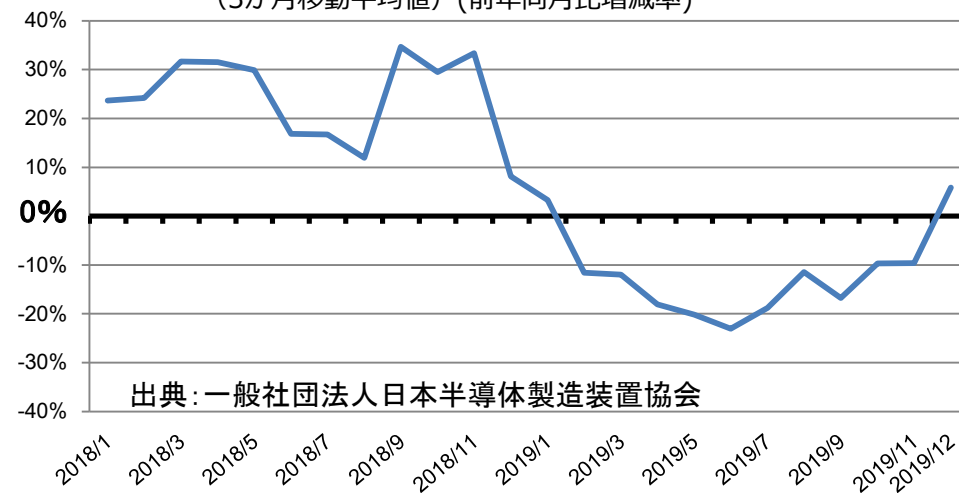
(前年同月比増減率)



- ・2017年から2018年上期までは、中国スマホ向け需要拡大が続き空前の好況。
- ・2018年秋ごろより米中貿易摩擦影響が、精密機械から自動車や一般機械向けに広がり、下落基調。足元対前期比で-40%程度で横ばい推移。

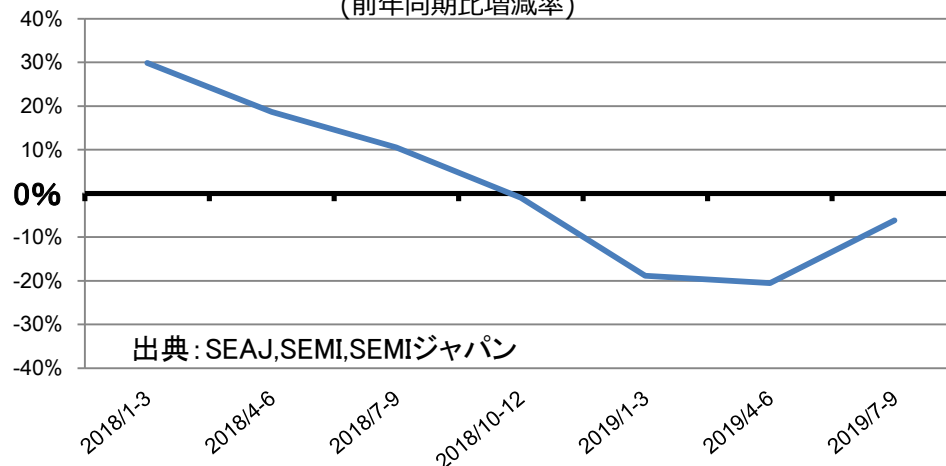
半導体製造装置販売金額(日本)

(3か月移動平均値) (前年同月比増減率)



半導体製造装置販売金額(世界)

(前年同期比増減率)

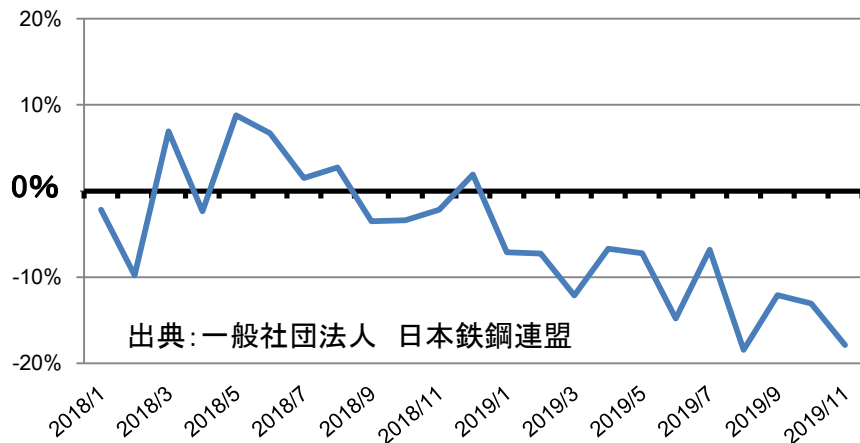


2017年から2018年までは、中国での需要拡大が続いていたが、米中貿易摩擦影響から落ち込む。足元、5G関連等で回復基調。

特殊鋼市場の動向

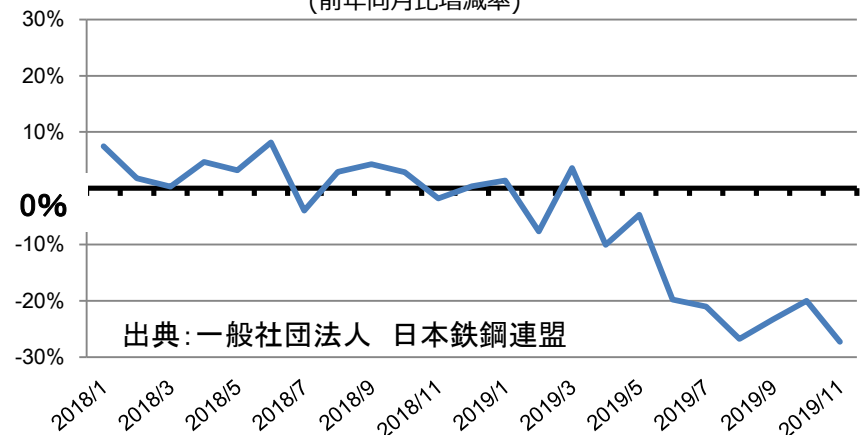
日本特殊鋼受注数量（特殊鋼）

(前年同月比増減率)



日本特殊鋼受注数量(軸受鋼)

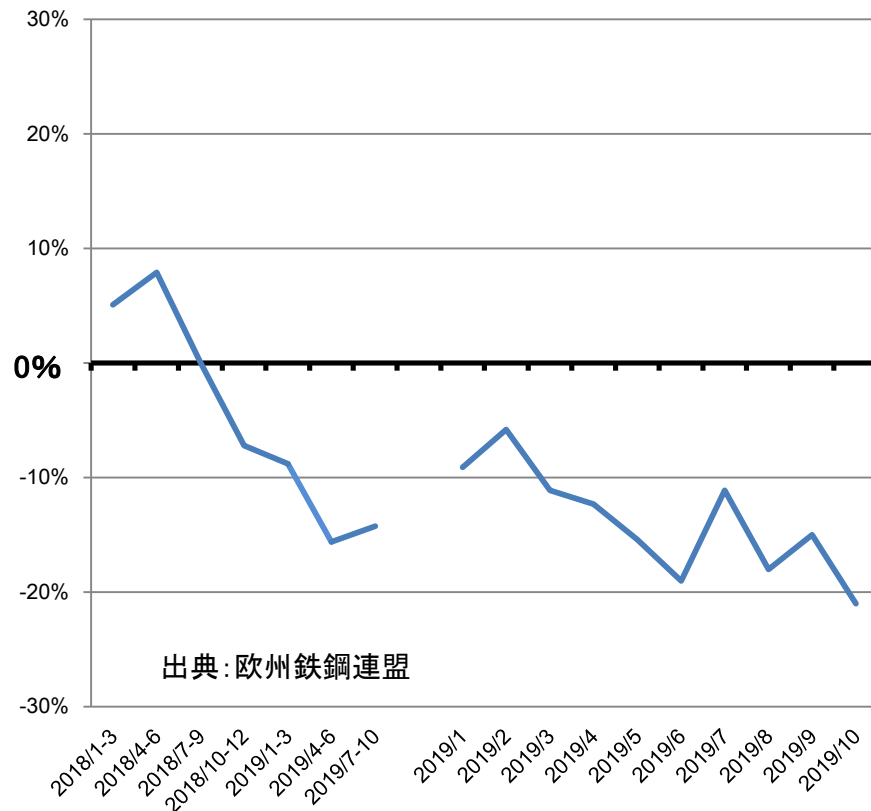
(前年同月比増減率)



軸受鋼は、2019年夏頃から受注が急減し、その後もマイナス幅が拡大。(世界各国での自動車・建機・産機向け需要低迷と大幅な在庫調整)

欧州デリバリー数量 棒鋼 & 平鋼/構造用合金鋼

(前年同期比増減率)



2018年10月以降、対前年同期比でマイナス推移。
(自動車向け等需要低迷およびサプライチェーンによる在庫調整影響)

損益の概要

(単位:億円)

	2019/4-12月期 (A)		2018/4-12月期 (B)		対前年同期 (A)-(B)	
	金額	売上高 比率(%)	金額	売上高 比率(%)	金額	増減率 (%)
売上高	2,037	100.0	1,392	100.0	+645	+46.3
営業利益	15	ROS 0.7	82	ROS 5.9	-67	-81.5
内、当社単体	41	-	76	-	-35	-45.8
内、Ovako (注1)	4	-	-	-	+4	-
内、MSSS (注1,4)	▲6	-	0	-	-7	-
内、のれん償却費	▲21	-	▲2	-	-19	-
経常利益	11	0.5	81	5.8	-70	-86.6
純利益(注2)	0	0.0	72	5.2	-72	-99.6

純利益(構造ベース)(注3)	22	1.1	59	4.3	-38	-63.5
----------------	----	-----	----	-----	-----	-------

売上数量(千t)	1,283	142.6/月	881	97.9/月	+402	+44.7/月
内、当社単体	682	75.8/月	802	89.1/月	-120	-13.4/月
内、Ovako	526	58.4/月	-	-	+526	+58.4/月
内、MSSS (注4)	75	8.4/月	79	13.1/月	-3	-4.8/月

(注1) 連結する両社の決算期間は2019年1月～12月

(注4) FY2018は2Qより連結

(注2) 親会社株主に帰属する四半期純利益

(注3) 親会社株主に帰属する四半期純利益からのれん償却費や段階取得差益を調整した利益

FY2019/3Q: 純利益+のれん償却費(22億円=0億円+21億円)

FY2018/3Q: 純利益-MSSS段階取得差益+のれん償却費(59億円=72億円-13億円)

構造ベース利益について (2018/4-12月期→2019/4-12月期)

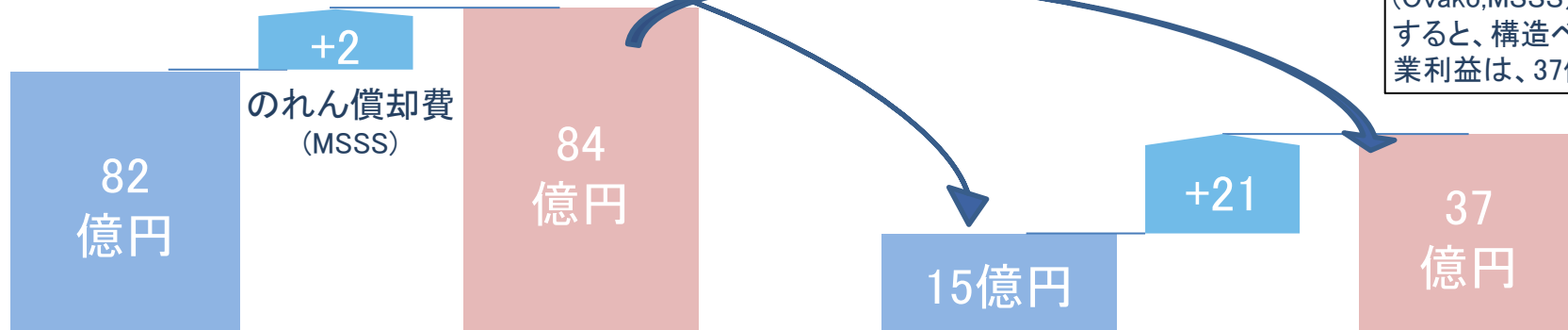
営業利益

-67億円 (-81%)

実質的な減少

-48億円 (-57%)

のれん償却費 (Ovako, MSSS) を考慮すると、構造ベース営業利益は、37億円



FY2018/4-12月期

FY2018/4-12月期
構造ベース

FY2019/4-12月期

FY2019/4-12月期
構造ベース

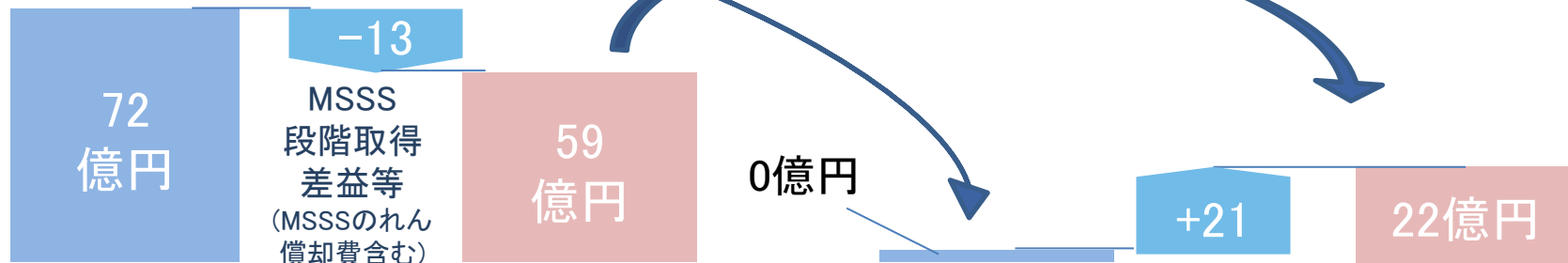
税後当期利益

-72億円 (-99%)

実質的な減少

-38億円 (-63%)

のれん償却費 (Ovako, MSSS) を考慮すると、構造ベース当期利益は、22億円



FY2018/4-12月期

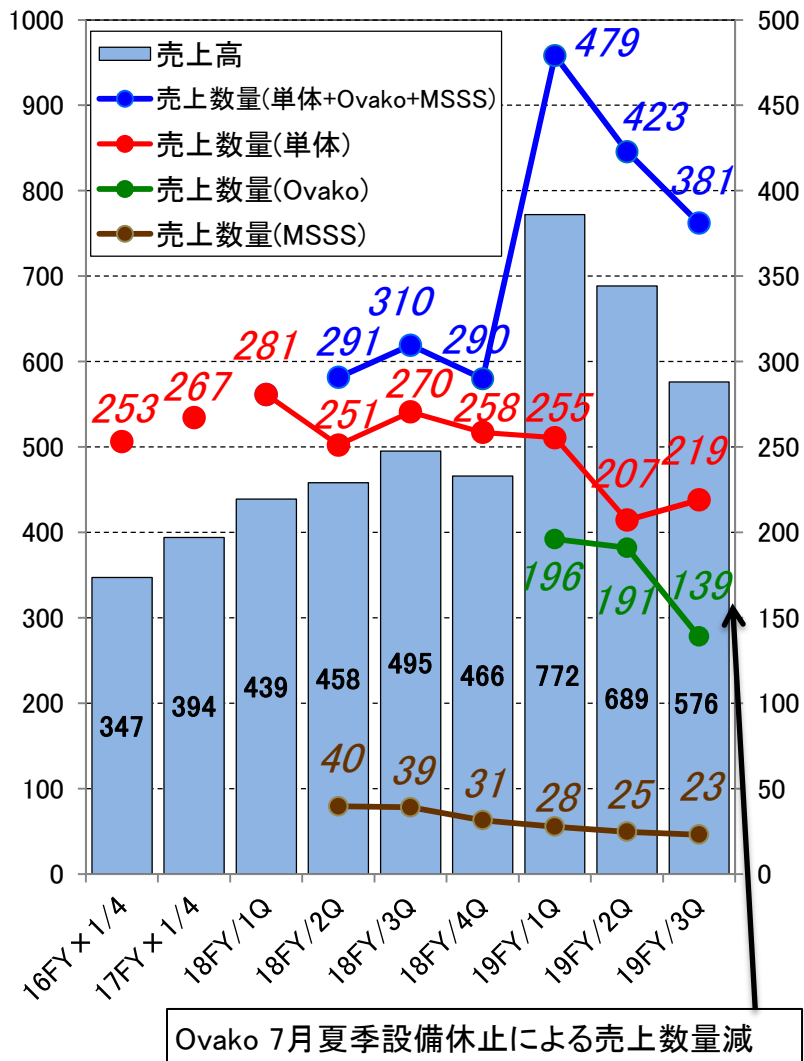
FY2018/4-12月期
構造ベース

FY2019/4-12月期

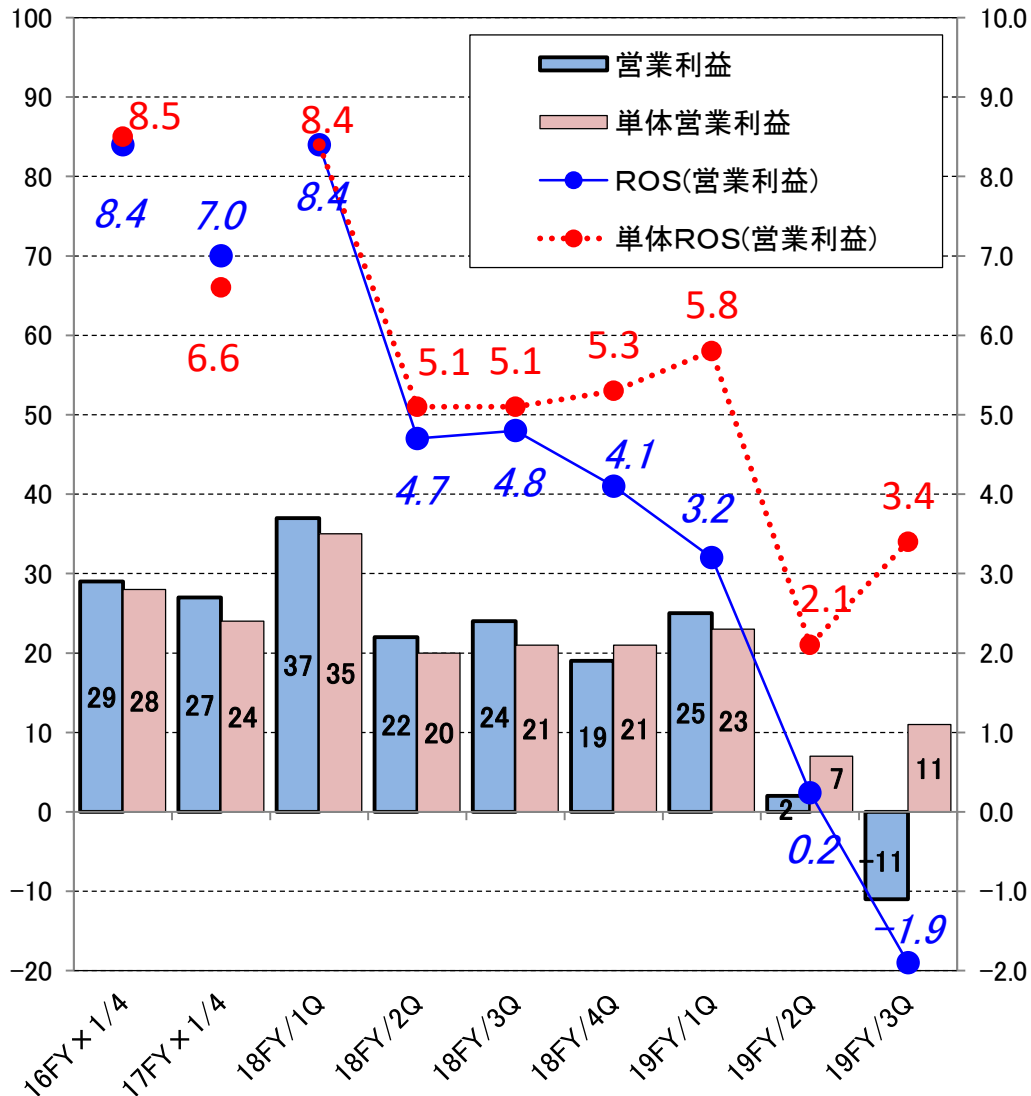
FY2019/4-12月期
構造ベース

業績推移(四半期)

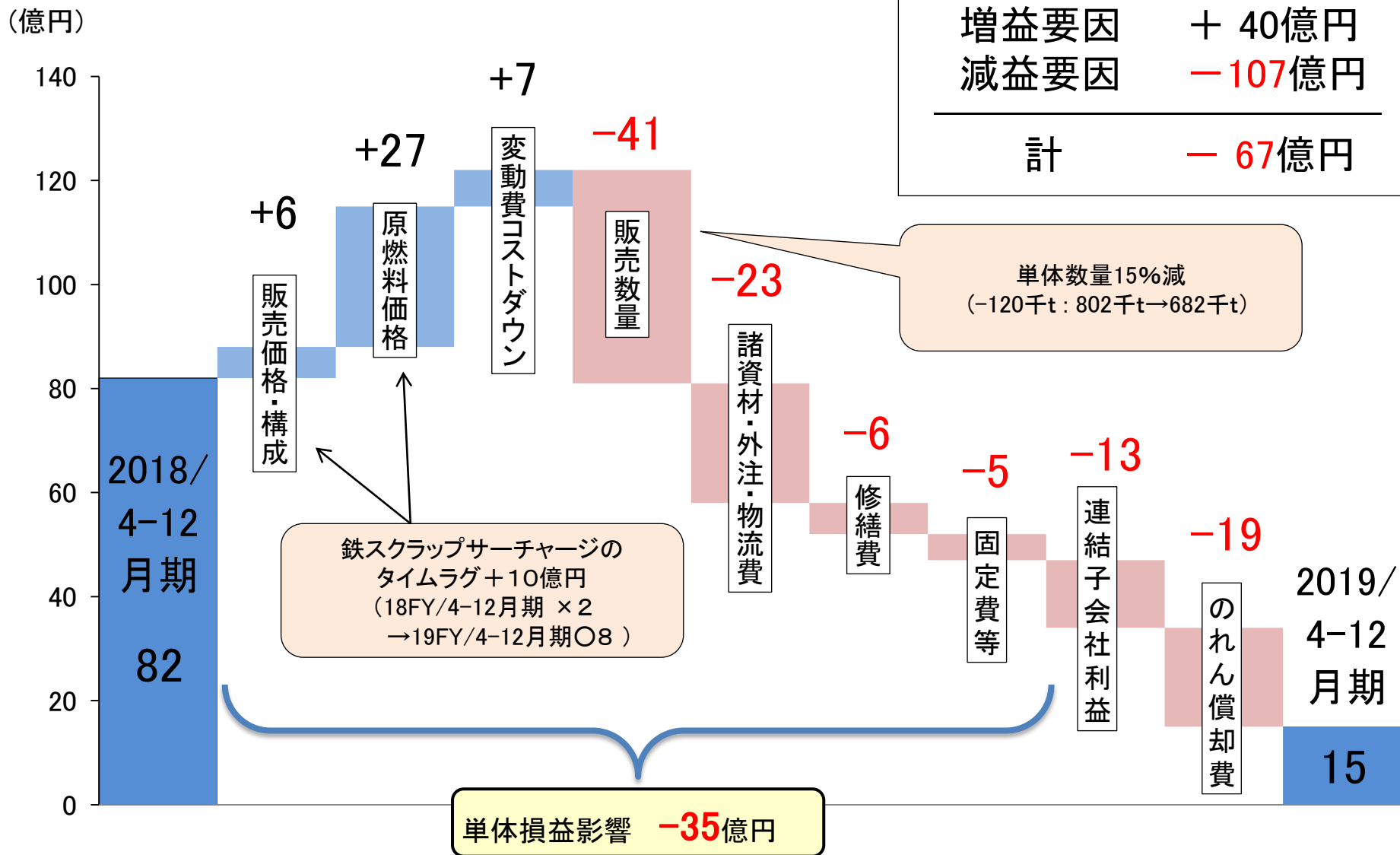
売上高 (億円) 売上数量 (千t/四半期)



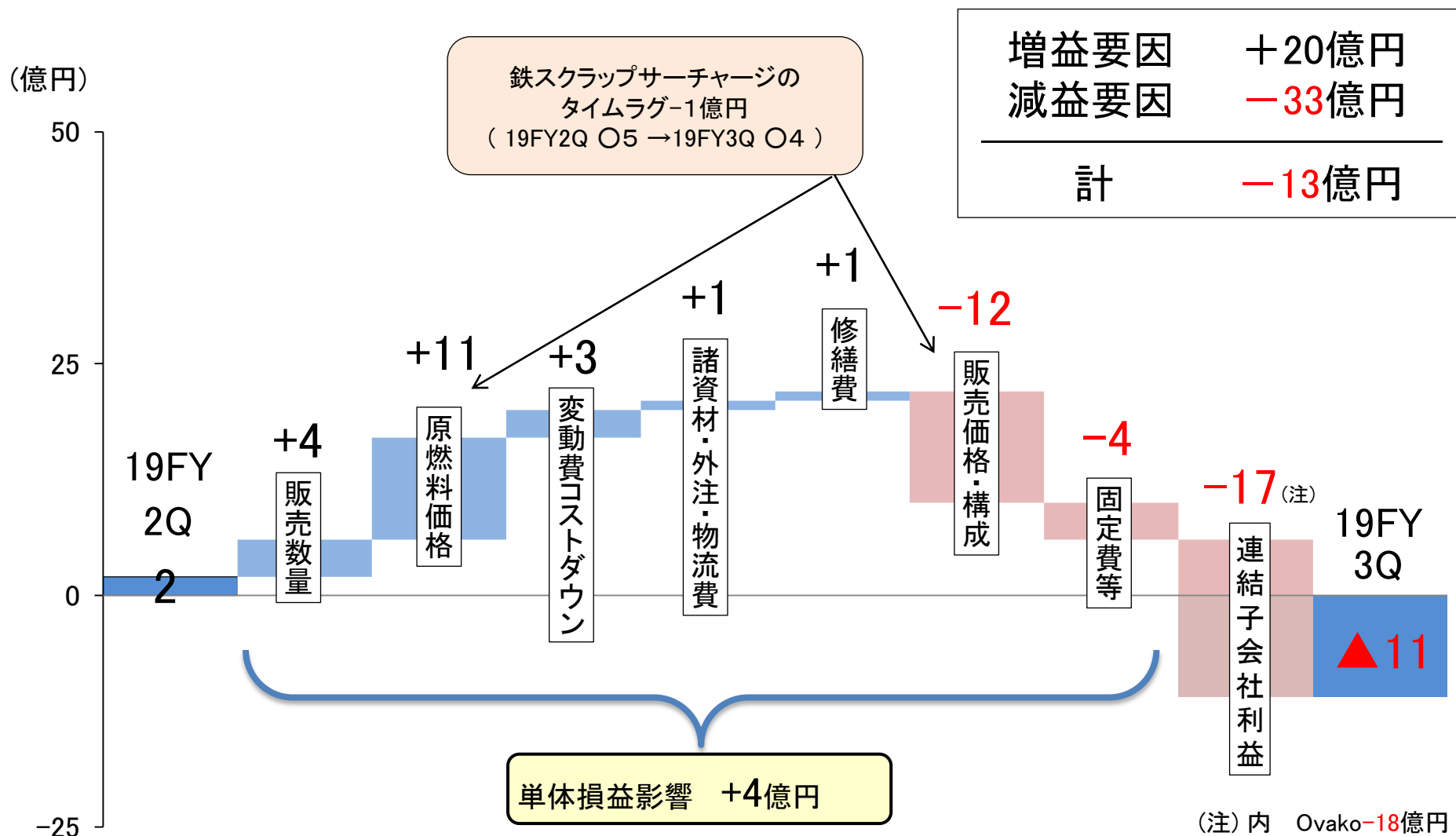
利益 (億円) ROS (%)



営業利益の変化要因 (2018/4-12月期→2019/4-12月期)



営業利益の変化要因(2019FY2Q→2019FY3Q)

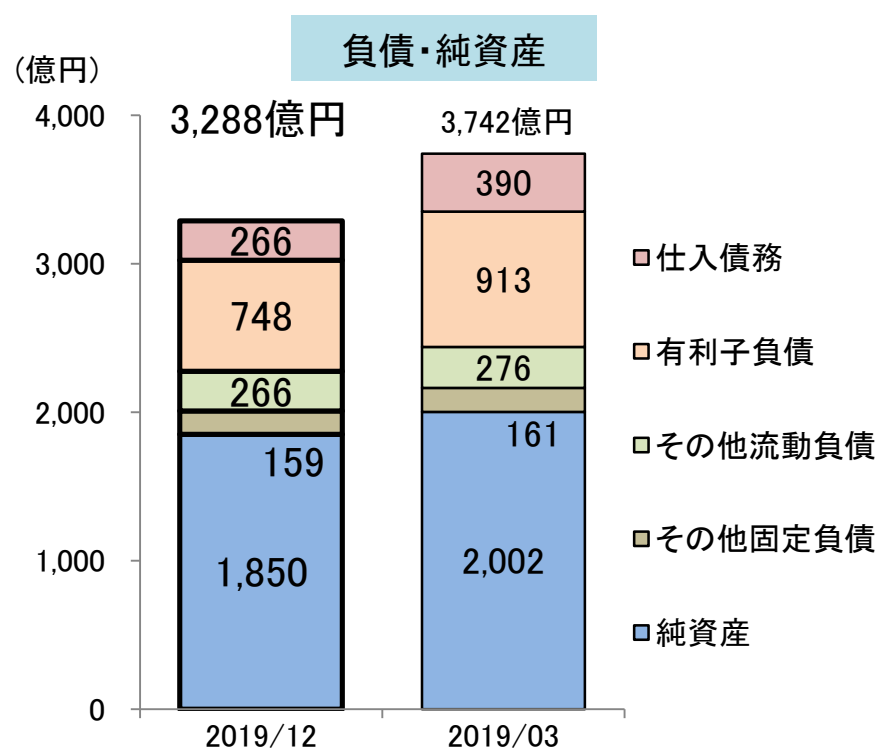
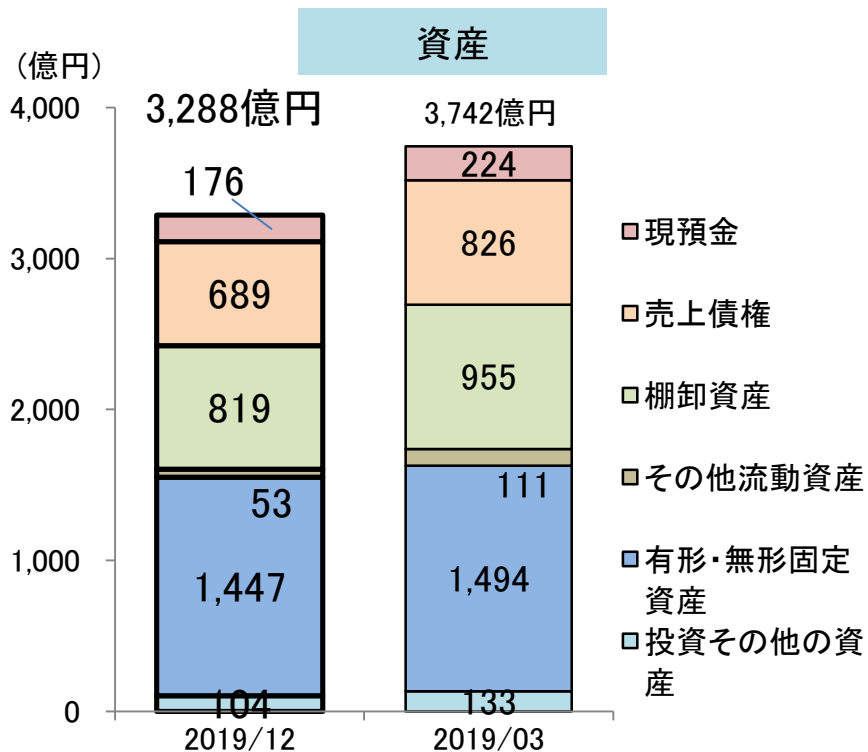


セグメント別損益

(単位:億円)

	2019/4-12月期(A)			2018/4-12月期(B)			対前年同期(A)-(B)		
	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)	売上高	営業利益	売上高 営業利益 率(%)
鋼材	1,935	11	0.6	1,274	69	5.4	+661	-57	-4.8
粉末	32	2	5.0	37	6	15.7	-6	-4	-10.7
素形材	134	2	1.1	152	7	4.4	-19	-5	-3.3
小計	2,100	14	0.7	1,463	81	5.6	+637	-67	-4.9
その他	12	0	3.1	11	0	2.4	+1	+0	+0.7
調整額	▲75	0	—	▲82	1	—	+7	-0	—
連結計	2,037	15	0.7	1,392	82	5.9	+645	-67	-5.2

貸借対照表



資産の主な増減 -454億円 (-12%)

現預金	- 48億円 : 単体+44億円、Ovako-75億円
売上債権	-136億円 : 単体-72億円、Ovako-21億円、MSSS -14億円
棚卸資産	-136億円 : 単体-69億円、Ovako-60億円、MSSS -10億円
無形固定資産	-62億円 : のれん-61億円 (内、為替変動 -29億円、償却 -21億円 他)
	【のれん総額 363億円←424億円】

負債・純資産の主な増減 -454億円 (-12%)

仕入債務	-124億円 : 単体-35億円、Ovako-40億円、MSSS-14億円
有利子負債	-165億円 : 短期借入-157億円、長期借入金 +52億円 CP -80億円、リース債務(Ovako) +20億円
純資産	-152億円 : 利益剰余金-22億円、自己株式取得 -25億円 その他包括利益累計額-99億円

(参考)主要各社の単体総資産額(連結消去前)

当社 2,585億円 Ovako 849億円 MSSS 162億円

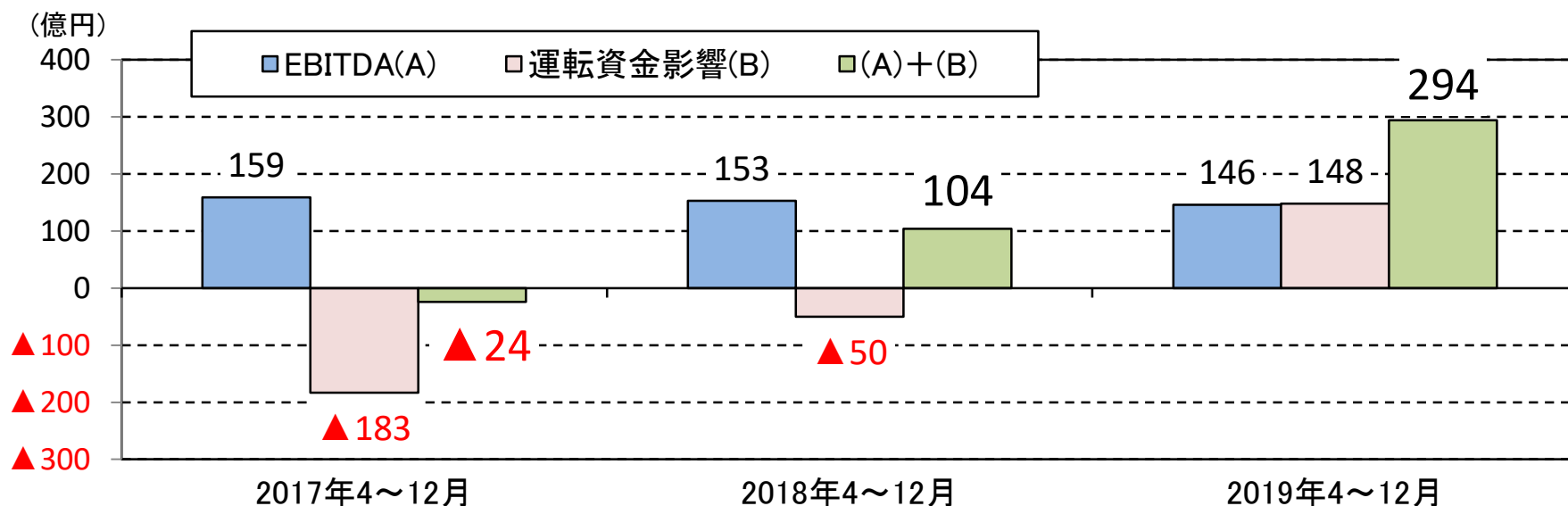
自己資本比率	2019/12	2019/03
	55.1%	52.3%

営業キャッシュ・フロー(簡便計算による)の推移

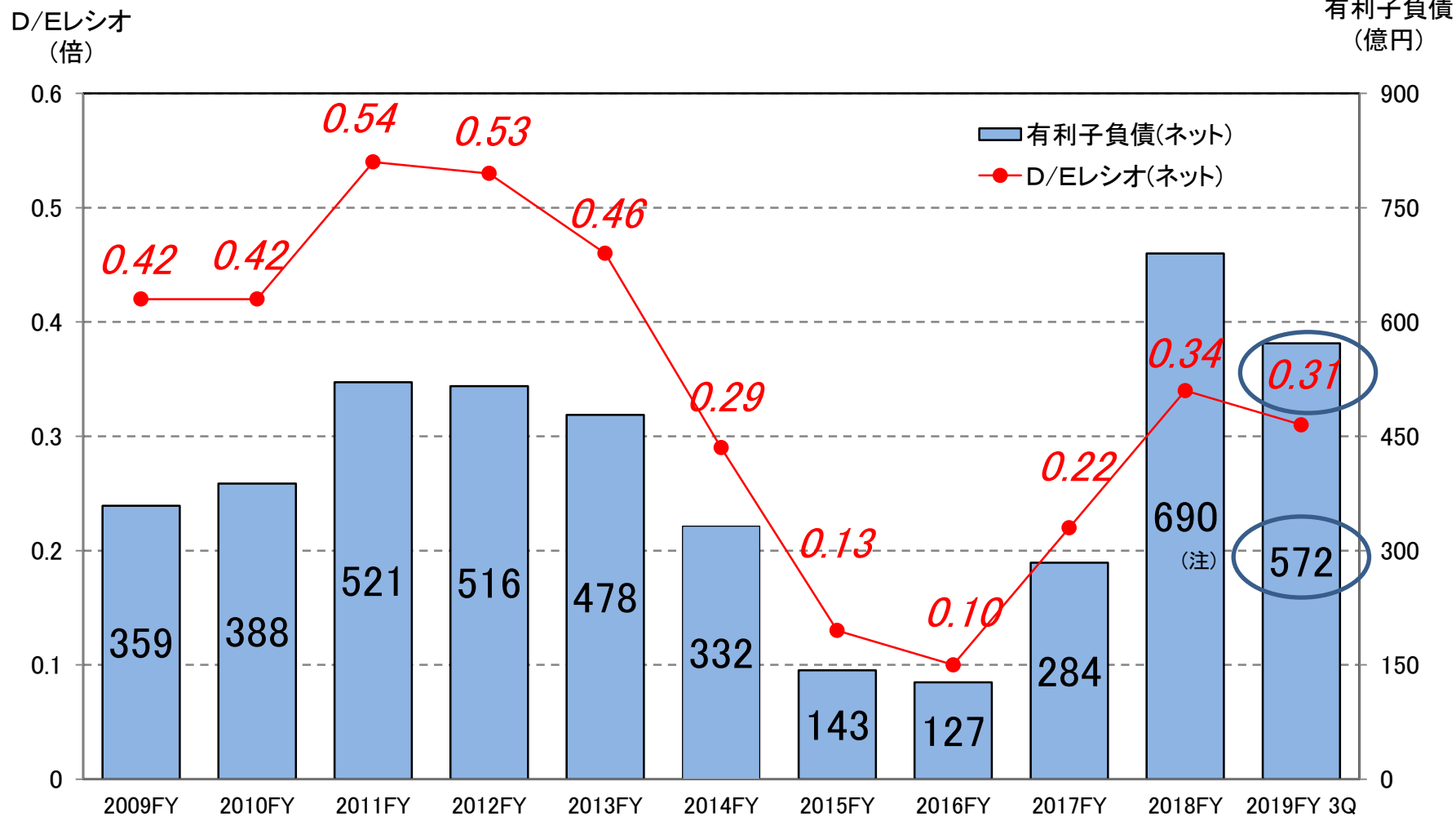
(単位:億円)

	2017年4~12月	2018年4~12月	2019年4~12月
EBITDA…(A)	159	153	146
(営業利益)	(92)	(82)	(15)
(減価償却費)	(66)	(69)	(110)
(のれん償却費)	(-)	(2)	(21)
運転資金(注)増減影響…(B)	▲183	▲50	148
(A)+(B)	▲24	104	294

(注)売上債権+棚卸資産-仕入債務の増減額。新規連結影響を除く

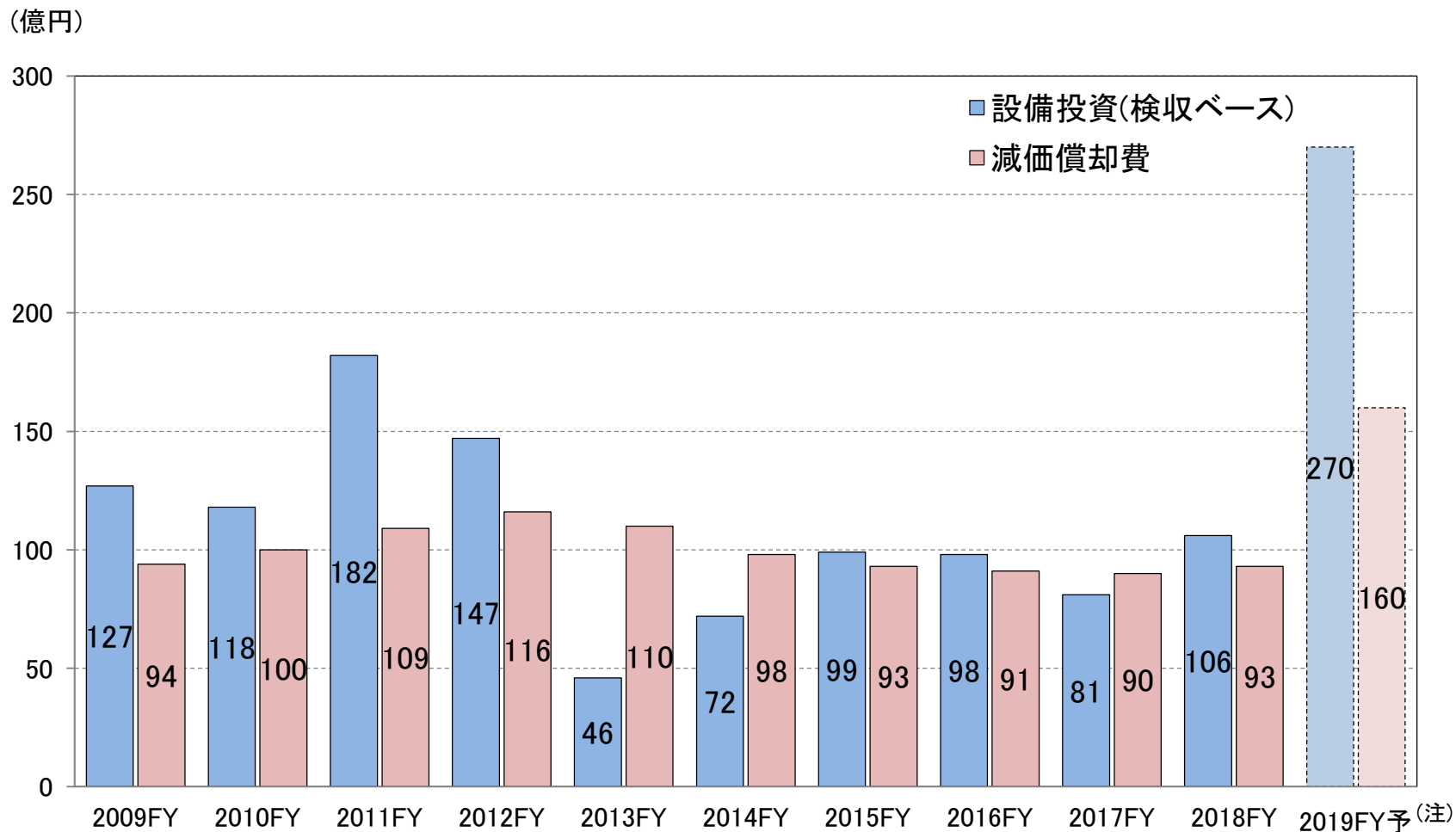


D/Eの推移



(注) 2018FYの有利子負債(ネット) 690億円の内、Ovakoは、336億円、MSSSPLは、28億円。

(参考)設備投資・減価償却費の推移



(注)2019FY予の設備投資(検収ベース)270億円の内、当社の第二棒線工場のボトルネック解消投資132億円、Ovako48億円、MSSS7億円。
2019FY予の減価償却費160億円の内、Ovako54億円、MSSS 5億円。

2019FY業績予想の修正について

(単位:億円)

	今回予想(A)			前回予想(B)			増減(A)-(B)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	1,461	1,139	2,600	1,461	1,309	2,770	-	-170	-170
営業利益	26	▲45	▲19	26	14	40	-	-59	-59
内、当社単体	30	1	31	30	50	80	-	-49	-49
内、Ovako (注1)	17	▲23	▲6	17	▲17	0	-	-6	-6
内、MSSS (注1)	▲4	▲5	▲9	▲4	▲5	▲9	-	-	-
内、のれん償却費(注2)	▲15	▲14	▲29	▲15	▲15	▲30	-	+1	+1
経常利益	22	▲45	▲23	22	8	30	-	-53	-53
当期純利益	14	▲42	▲28	14	2	16	-	-44	-44
純利益(構造ベース)(注3)	29	▲28	1	29	17	46	-	-45	-45
売上数量(千t)	902	714	1,616	902	823	1,725	-	-109	-109
内、当社単体	463	392	855	463	478	941	-	-86	-86
内、Ovako	387	280	667	387	298	685	-	-18	-18
内、MSSS	52	42	94	52	47	99	-	-5	-5

(注1) 連結する両社の決算期間は1月～12月 (注2) Ovako、MSSSに係るのれん償却費

(注3) 当期純利益からのれん償却費や段階取得差益を調整した利益

FY2019 今回予想 : 純利益+のれん償却費(1億円=▲28億円+29億円)

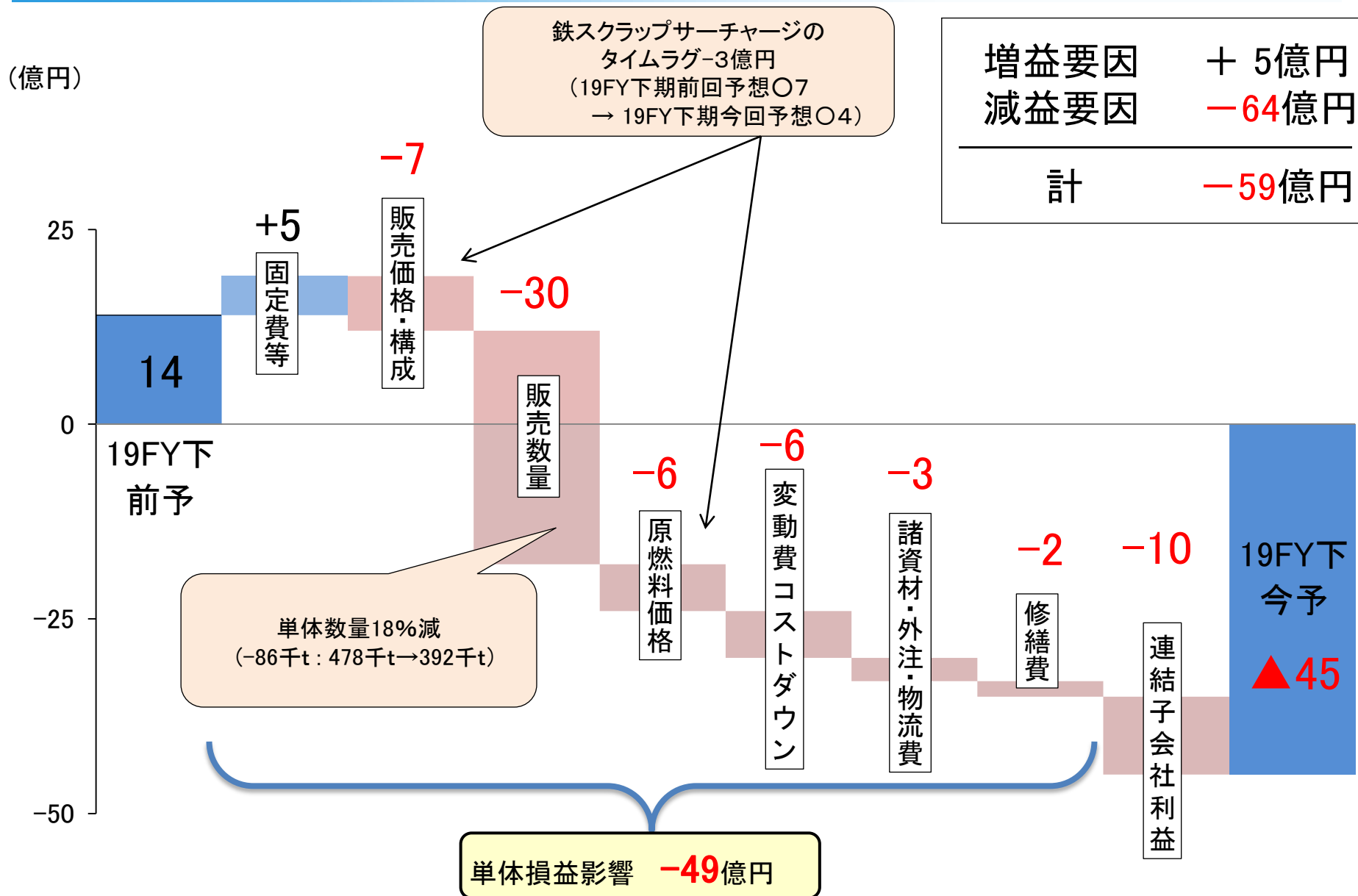
FY2019 前回予想 : 純利益+のれん償却費(46億円=16億円+30億円)

(注4) 前回予想は、2019年10月30日時点

主要前提(2020年1月以降)

- ・鉄スクラップ 23.0千円/t(姫路地区H2市況)
- ・原油(ドバイ) 65\$/BL
- ・為替 110円/\$、120円/€

営業利益の変化要因 (2019FY下期前回予想→2019FY下期今回予想)



当社単体業績

2019年度の概況

- ・米中貿易摩擦
- ・新興国経済の減速
- ・英国のEU離脱問題

需要業界の在庫調整の動きが拡大

- ・工作機械
- ・ロボット
- ・半導体製造装置

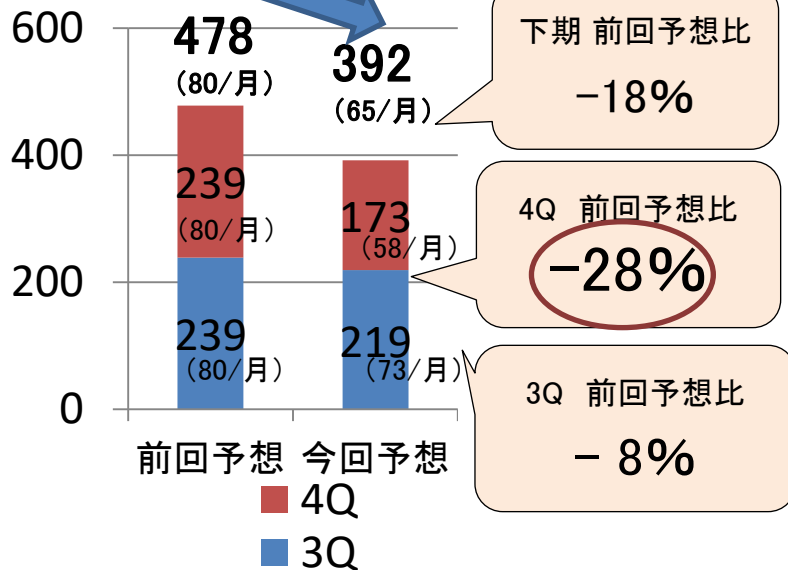


- ・自動車
- ・産業機械
- ・建設機械

当社単体の受注状況悪化

主要需要業界の在庫調整継続、当社受注低迷継続

当社単体の売上数量比較(千t)



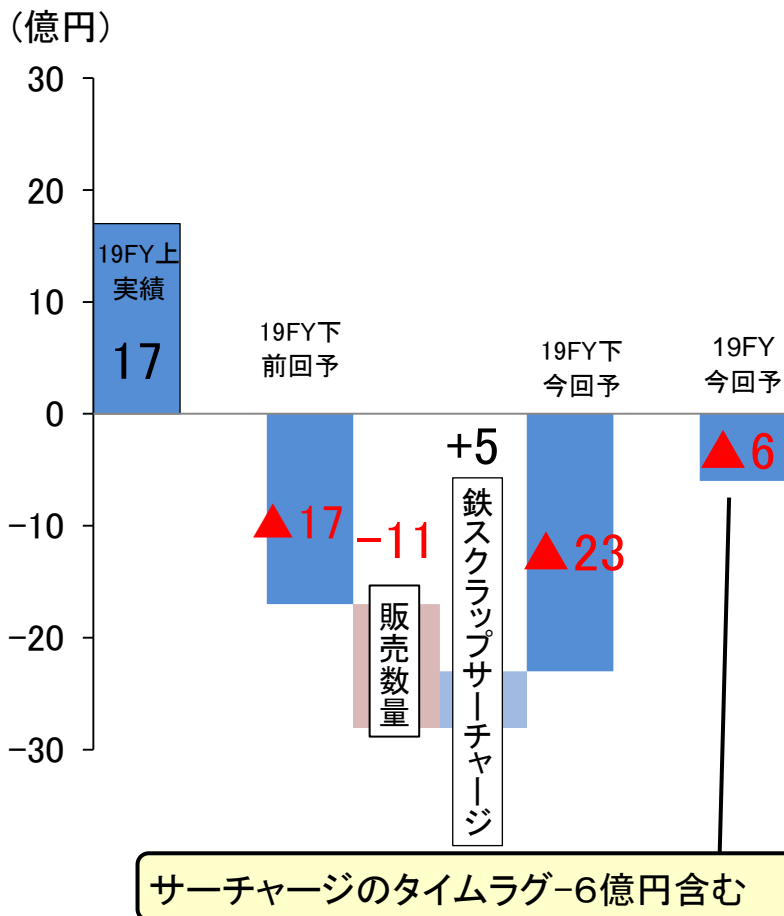
対策実施

- ・新規・スポット受注等の拡販活動を積極的に推進
- ・不採算品の削減や高収益品の拡販
- ・最適生産・コストミニマム操業の継続
- ・緊急収益改善対策を実施(後述)

営業利益の変化要因

2019FY下期前回予想(▲17億円)

→ 2019FY下期今回予想(▲23億円)(-6億円)



2019年度の概況および見通し

- ・米中貿易摩擦
- ・英国のEU離脱問題

- ・EU経済減速
- ・製造業景況感悪化

- ・WLTP駆込需要反動 (欧州新燃費計測法)
- ・サプライチェーン在庫調整

- ・EU特殊鋼需要急落 (2018/10月～)

<下期の前回予想→今回予想について>

販売数量 : 想定以上の需要悪化(下期数量6%減 -18千t: 298千t→280千t)

鉄スクラップサーチャージ : 鉄スクラップ価格の上昇により減少

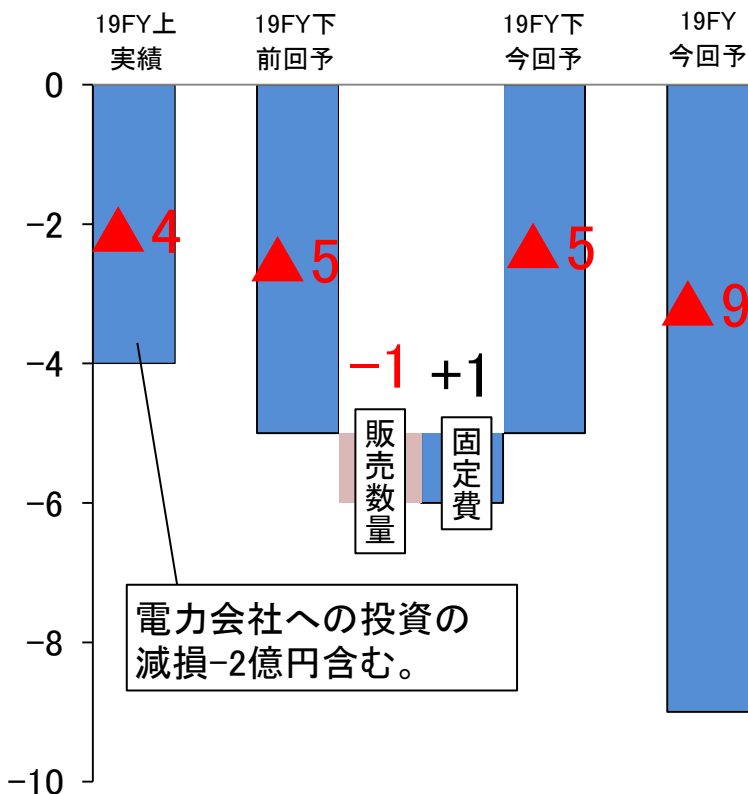
収益改善策

- ・人員削減等による固定費の削減
- ・3社連携によるシナジー効果の発揮
 - ① 拡販活動の推進
 - ② 操業コストの削減
 - ③ 調達コストの削減

営業利益の変化要因

2019FY下期前回予想(▲5億円)
→ 2019FY下期今回予想(▲5億円)(0億円)

(億円)



2019年度の概況および見通し

インド国内自動車販売

2018年11月以降前年同月比 マイナス継続
2019年8月 前年同月比 ▼30%超

2019年10～12月 落込幅縮小
→大幅な在庫調整終息見通し

MSSS販売数量
今後回復見込

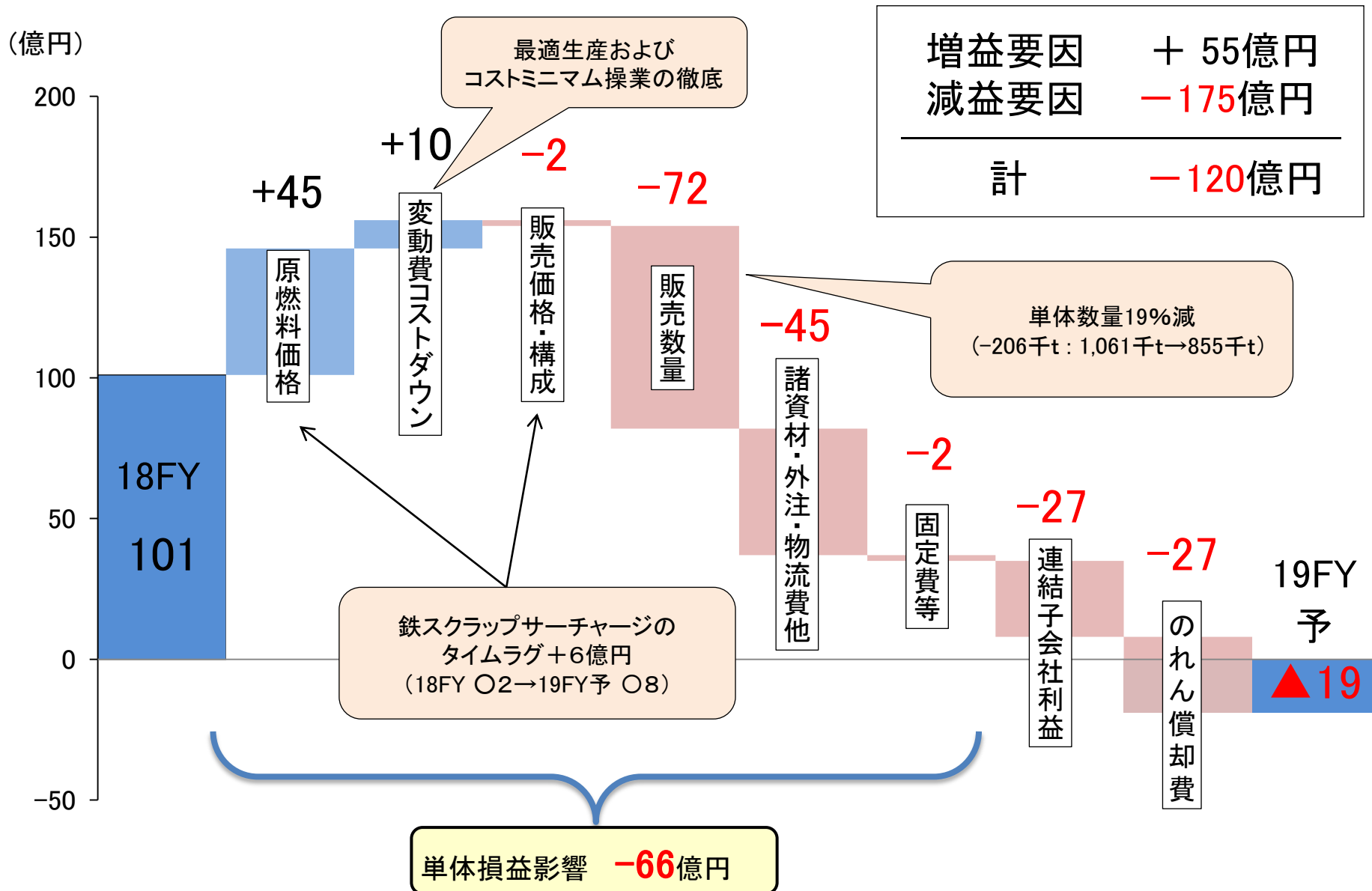
<下期の前回予想→今回予想について>

販売数量 : 下期数量 11%減 -5千t:47千t→42千t
固定費 : 労務費・償却費減少

収益改善策

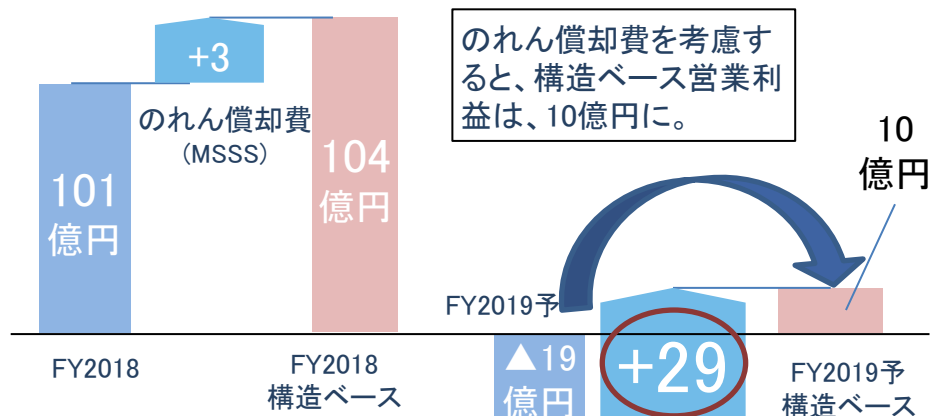
- ・2020年2月に鉄道向け2,600t出荷見込 (総受注規模 25,000t)
- ・営業支店網充実等を通じた高収益品の受注量拡大 新規顧客獲得、既存顧客のシェアアップ
- ・まとめ生産によるエネルギー原単位改善や中国製電極の使用による操業コスト・調達コストの削減
- ・要員適正化による労務費・外注費削減

営業利益の変化要因 (2018FY実績→2019FY今回予想)

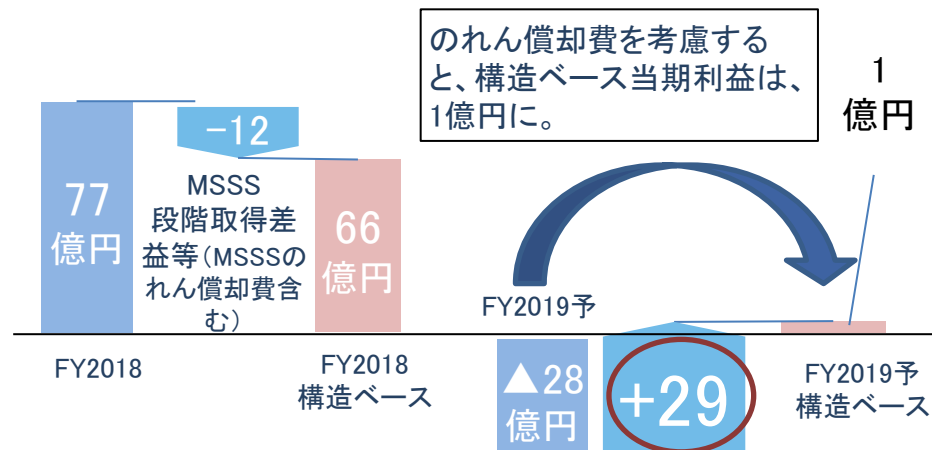


構造ベース利益について (2018FY実績→2019FY今回予想)

営業利益

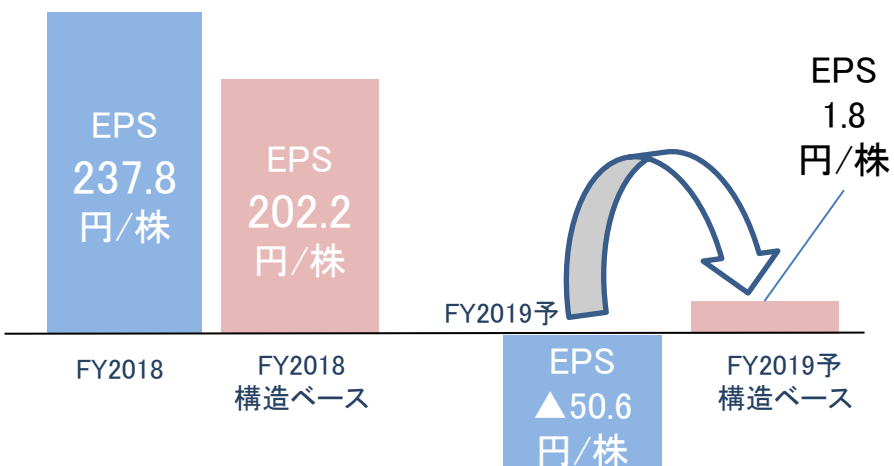


税後当期利益

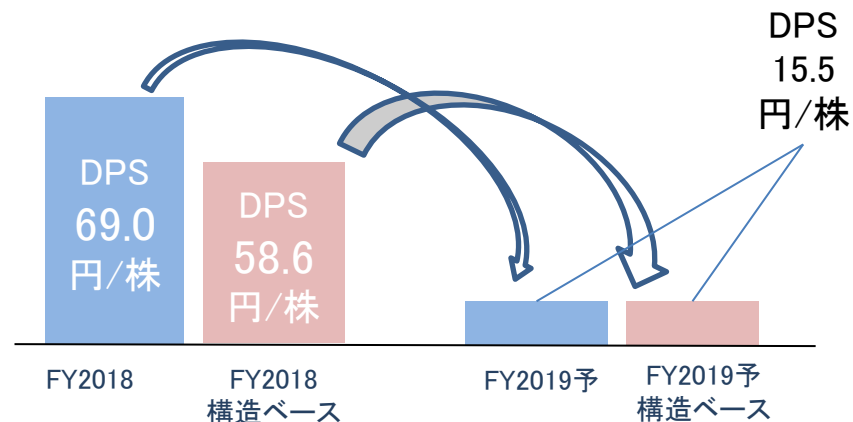


EPS・DPS

① EPS



② DPS



2019FY配当について

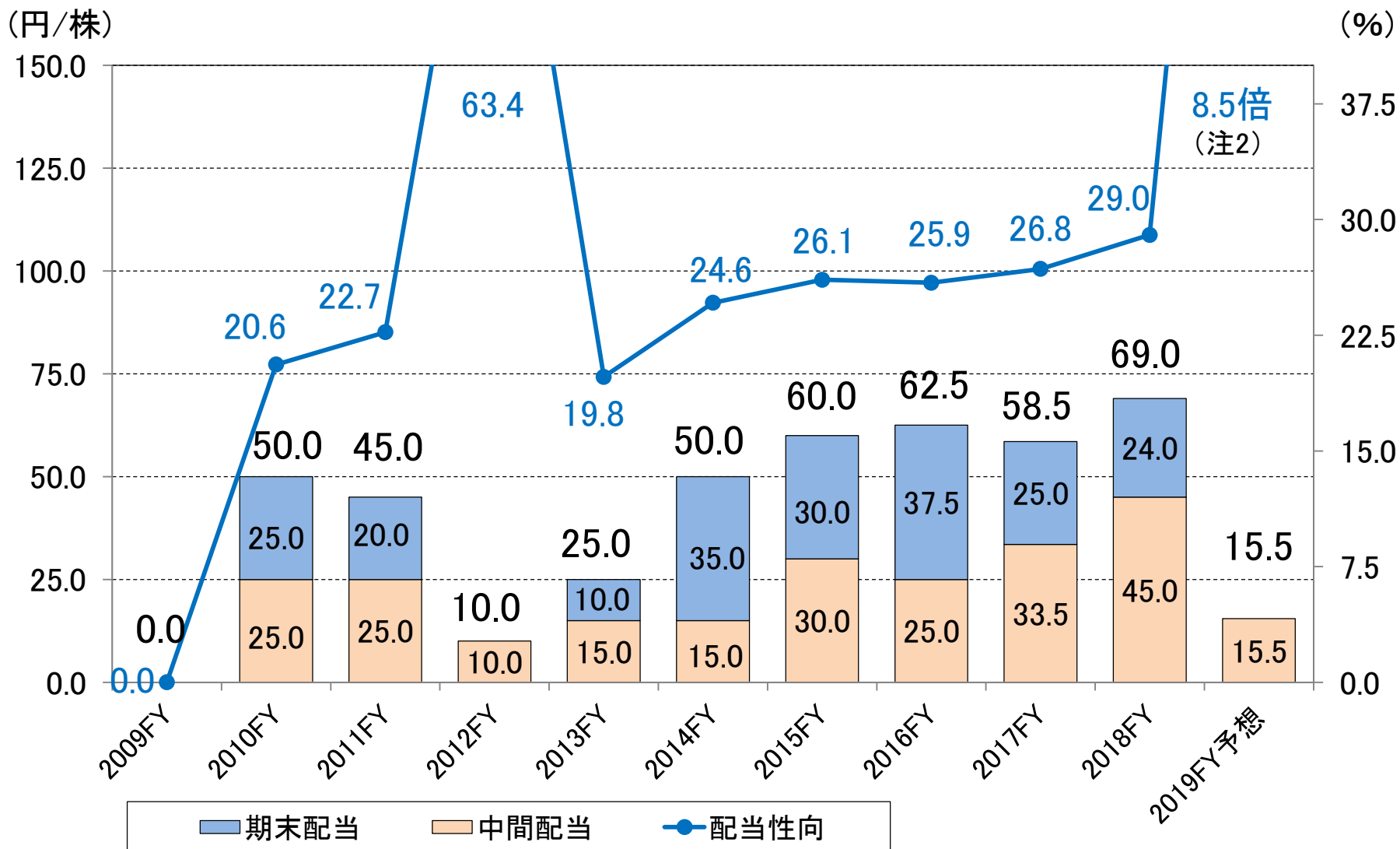
期末配当予想について

期末配当予想につきましては、当期の下期損益が赤字計上の見通しとなり、誠に遺憾ながら期末配当の実施を見送らせていただく予定です。

基準日	年間配当金(円)		
	第2四半期末	期末	年間
前回予想 (2019年10月30日公表)		9.50	25.00
今回修正予想		0	15.50
当期実績(注)	15.50		
前期実績(2019年3月期)	45.00	24.00	69.00

(注) 当第2四半期末の1株あたり配当金は、のれん償却前EPS×30%

配当推移



(注1) 2017年10月1日に株式併合(5株を1株)を実施。当該株式併合を踏まえて換算。

(注2) のれん償却前EPSから算出。

自己株式取得と自己株式消却の完了について

①自己株式取得完了

(1)取得した株式の総数	普通株式1,730,000株(発行済株式総数の3.1%)
(2)株式の取得価額の総額	25億円
(3)取得期間	2019年6月20日から2019年12月3日

②自己株式消却完了

(1)消却対象株式の種類	普通株式
(2)消却した株式の総数	2,930,000株 (消却前の発行済株式総数の5.1%)
(3)消却日	2019年12月27日

③総還元性向について

	FY2018実績	FY2019予想	
配当金	28億円	9億円	
自己株式取得額	-	25億円	
株主総還元	28億円	34億円	
当期純利益	77億円	(のれん償却後) ▲28億円	(のれん償却前) 1億円
総還元性向	36.2%	-	33.6倍

緊急収益改善対策

早期の収益改善を図るため緊急収益改善対策を実施

項目	実施内容		実施期間
①役員等報酬の一部返上 (※)	代表取締役社長	報酬月額20%	2020年2月分報酬から当面の間
	取締役常務執行役員 フェロー 執行役員	報酬月額10%	
	参与	報酬月額7%	
②雇用調整助成金制度を活用した休業等	本社工場勤務の全従業員を対象とした2日/月程度の休業等の雇用調整助成金制度の活用		2020年3月1日から当面の間
③管理職給与の一部自主返上	部長、室長層	給与月額5%	2020年2月分給与から当面の間
	グループ長、課長層	給与月額3%	
	その他管理職	給与月額1%	
④その他経費の削減等	不急の出費・投資の抑制など、可能な限りの経費節減および徹底したコストミニマム操業を実施		

※なお、常勤監査役より監査役報酬月額の10%を同期間返上するとの申し出がありました。

- ・上記の年間効果額 5億円
- ・上記以外に、業績連動賞与・残業代の減少で、2019年度 5億円、2020年度 10億円(2019年度比 +5億円)の労務費減を見込む
- ・Ovako、MSSSを含む連結子会社でも更なる収益改善に取り組む

トピックス

高機能金属粉末をアピール

- ・2019年12月に高機能金属展、2020年1月にTCT Japanに出展。
- ・3Dプリンター用銅合金粉末(※1)やCo(コバルト)フリーマルエージング鋼粉末(※2)等をアピール。

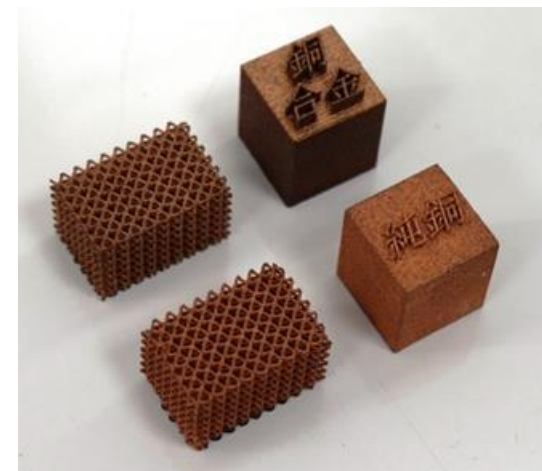
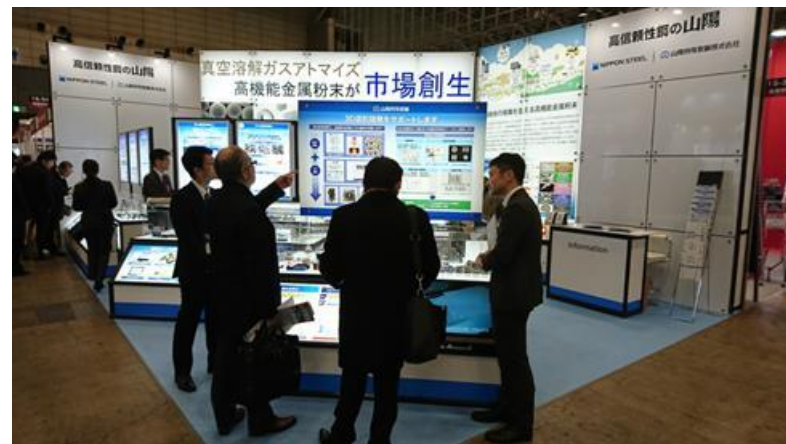
【最近の当社の開発商品】

※1 銅合金粉末

- ・純銅は、優れた導電性と熱伝導性で、様々な用途で幅広く用いられている一方、レーザーの吸収率が低く、金属3Dプリンターによる積層造形は困難。
- ・当社が開発した「銅合金粉末」は、合金組成を最適化したことで、3D造形性を実現、純銅を上回る強度や、純銅に準ずる導電性と熱伝導性を有する。
- ・従来の鋳造・延伸工法では製作が困難であった複雑な形状にも対応可能となり、今後は、自動車、航空宇宙等の新市場での活用を期待。

※2 Co(コバルト)フリーマルエージング鋼粉末

- ・マルエージング鋼とは、時効処理により高強度・高韌性の特性を併せ持つ工具鋼。
- ・当社が開発した「Coフリーマルエージング鋼粉末」は、取扱いに健康リスクをはらむCoの添加を回避しつつ、高強度、高韌性、3D造形性を実現。



(ご注意)

本資料の業績予想等は、本資料の発表日現在において、入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。